【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和4年6月15日(2022.6.15)

【国際公開番号】WO2021/014654
【出願番号】特願2021-534521(P2021-534521)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/89(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/42(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/85(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/86(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/87(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/36(2006.01)
Ａ６１Ｑ　1/12(2006.01)
Ａ６１Ｑ　1/02(2006.01)
Ａ６１Ｑ 17/04(2006.01)
Ａ６１Ｑ　1/10(2006.01)
Ａ６１Ｑ　5/12(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　8/89
Ａ６１Ｋ　8/42
Ａ６１Ｋ　8/85
Ａ６１Ｋ　8/86
Ａ６１Ｋ　8/87
Ａ６１Ｋ　8/36
Ａ６１Ｑ　1/12
Ａ６１Ｑ　1/02
Ａ６１Ｑ 17/04
Ａ６１Ｑ　1/10
Ａ６１Ｑ　5/12

【手続補正書】
【提出日】令和4年6月7日(2022.6.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
増粘剤としては、ヒアルロン酸ナトリウム、カチオン化ヒアルロン酸ナトリウム、アクリロイルジメチルタウリンとその塩を構成単位とする重合体および共重合体、ポリビニルピロリドン等が挙げられる。具体的には、例えば、（アクリル酸Ｎａ／アクリロイルジメチルタウリン／ジメチルアクリルアミド）クロスポリマー（商品名：ＳＥＰＩＮＯＶ　Ｐ８８；成和化成社）や　ポリアクリレートクロスポリマー－６（商品名：ＳＥＰＩＭＡＸ　ＺＥＮ；成和化成社）、（アクリル酸ヒドロキシエチル／アクリロイルジメチルタウリンＮａ）コポリマー（商品名：ＳＥＰＩＮＯＶ　ＥＭＴ　１０；成和化成社）、ポリビニルピロリドン（商品名：ルビスコールＫ１７、ルビスコールＫ３０、ルビスコールＫ９０；ＢＡＳＦジャパン社）、（ＰＥＧ－２４０／デシルテトラデセス－２０／ＨＤＩ）コポリマー／ラウリン酸Ｋ／ＢＧ／水の混合物（アデカノールＧＴ－７３０；ＡＤＥＫＡ社）、ポリウレタン－５９／ＢＧ／水の混合物（アデカノールＧＴ－９３０；ＡＤＥＫＡ社）、ト

リデセス－６（Ａｖａｌｕｒｅ　Ｆｌｅｘ－６　ＣＣ　Ｐｏｌｙｍｅｒ；ルーブリゾル社）、キサンタンガム（ケルトロールＣＧ－Ｔ；三晶社）、ジェランガム（ケルコゲル、ケルコゲルＨＭ；ＤＳＰ五協フード＆ケミカル社）、ケイ酸（Ｎａ／Ｍｇ）（商品名：ＯＶＥＩＬ　ＥＲ（大阪ガスケミカル社））、ベントナイト（商品名：ＯＶＥＩＬ　ＢＲ（大阪ガスケミカル社））等が挙げられる。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】
（展延付着性の評価方法）
タテ×ヨコが２５ｃｍ×１０ｃｍ片の人工皮革（出光化学社製、商品名：サプラーレ）を自動塗工装置（テスター産業社）上にセットした。人工皮革のヨコ端上に各処理パウダー０．３ｇを置き、次にスポンジパフを貼り付けた平面圧子をパウダーに載せた。この平面圧子を移動速度３５ｍｍ／ｓｅｃで２００ｍｍの条件で人工皮革上を移動した時の人工皮革上のパウダーの塗布具合を観察してパウダーの展延付着状態を３段階評価した。
（展延付着性の評価基準）
〇：人工皮革上にスポンジパフ移動距離すべてに均一にパウダー塗布膜を形成している。
△：塗布膜にムラある。
×：ほとんど塗布できなかった。
図３は、展延付着性の評価基準における評価例（△、〇、×）を示す。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６７】
実施例１１の評価結果から、ポリオキシエチレン（１０）イソステアリルエーテルで処理した親水化アミノ酸パウダー（すなわち実施例２のパウダー）及び親水化金属石鹸パウダー（すなわち実施例５のパウダー）は、パウダーファンデーションに調製しても、良好な使用感、化粧効果、化粧持続性が得られることが分かった。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６８】
一方で、比較例１１の評価結果から、ポリオキシエチレン（１５）イソステアリルエーテルで処理した親水化アミノ酸パウダー（すなわち比較例３のパウダー）及び親水化金属石鹸パウダー（すなわち比較例６のパウダー）は、パウダーファンデーションに調製した場合に、ポリオキシエチレン（１０）イソステアリルエーテルで処理したもの（すなわち実施例１１）よりも使用感、化粧効果、化粧持続性が劣ることが分かった。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７８】
［表５］

	成分	実施例１３	比較例１３
油層成分	デカメチルシクロペンタシロキサン	10.0(wt%)	10.0(wt%)
	イソドデカン	7.0	7.0
	トリエチルヘキサノイン	5.0	5.0
	ＰＥＧ－１０ジメチコン	3.5	3.5
	アルキルシラン処理微粒子酸化亜鉛	6.5	6.5
	疎水化シリコーン処理酸化チタン	7.5	7.5
	疎水化シリコーン処理黄酸化鉄	3.0	3.0
	疎水化シリコーン処理赤酸化鉄	1.2	1.2
	疎水化シリコーン処理黒酸化鉄	0.3	0.3
水層成分	実施例１のパウダー	8.0	—
	比較例１のパウダー	—	8.0
	ＢＧ	6.0	6.0
	フェノキシエタノール	0.8	0.8
	イオン交換水	to100.0	to100.0
評価結果	使用感	4.3	3.7
	化粧効果	4.5	3.8
	化粧持続性	3.4	3.2

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７９】
［表６］

	成分	実施例１４	比較例１４
油層成分	イソヘキサデカン	13.0(wt%)	13.0(wt%)
	トリ２－エチルヘキサン酸グリセリル	5.5	5.5
	パラメトキシケイ皮酸２－エチルヘキシル	5.0	5.0
	ＰＥＧ－９ジメチコン	2.0	2.0
	疎水化アルキルシラン処理酸化チタン	8.0	8.0
	疎水化アルキルシラン処理黄酸化鉄	2.8	2.8
	疎水化アルキルシラン処理赤酸化鉄	1.1	1.1
	疎水化アルキルシラン処理黒酸化鉄	0.2	0.2
水層成分	ＢＧ	8.0	8.0
	実施例２のパウダー	8.0	—
	比較例３のパウダー	—	8.0
	カルボマー	0.3	0.3
	トリエタノールアミン	0.15	0.15
	フェノキシエタノール	0.5	0.5
	イオン交換水	残余	残余
評価結果	使用感	4.8	3.9
	化粧効果	4.6	3.9
	化粧持続性	3.8	3.6

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９２】
[表９]

	成分	実施例１７	比較例１７
油層成分	イソヘキサデカン	8.0	8.0
	イソノナン酸トリデシル	5.0	5.0
	ジメチルポリシロキサン（１０ｃｓ）	3.0	3.0
	セトステアリルアルコール	1.5	1.5
	パラメトキシケイ皮酸２－エチルヘキシル	8.0	8.0
水層成分	実施例４のパウダー	7.0	―
	比較例５のパウダー	―	7.0
	ＰＥＧ－８０水添ヒマシ油	2.0	2.0
	アクリル酸/アクリロイルジメチルタウリンＮａ共重合体	0.5	0.5
	キサンタンガム	0.1	0.1
	パラオキシ安息香酸メチル	適量	適量
	グリセリン	6.0	6.0
	エタノール	5.0	5.0
	精製水	残余	残余
評価結果	ベタツキ無さ	4.6	3.9
	油性感の無さ	4.5	3.8
	心地良さ	4.3	3.8

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１０】
［表１２］

	成分	実施例２０	比較例２１
粉体成分	疎水化シリコーン処理タルク	7.0(wt%)	7.0(wt%)
	疎水化シリコーン処理黄酸化鉄	0.7	0.7
	疎水化シリコーン処理赤酸化鉄	0.3	0.3
	実施例２のパウダー	3.0	—
	比較例３のパウダー	—	3.0
	実施例４のパウダー	3.0	—
	比較例５のパウダー	—	3.0
水層成分	ＢＧ	10.0	10.0
	グリセリン	5.0	5.0
	エタノール	9.0	9.0
	ＥＤＴＡ・２Ｎａ	0.2	0.2
	フェノキシエタノール	0.3	0.3
	イオン交換水	残余	残余
評価結果	使用感	4.6	3.5
	化粧効果	4.5	3.6
	化粧持続性	4.2	3.5

【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１５】
（ベタツキ、油性感、心地よさの評価方法）
制汗剤のベタツキ、油性感、心地よさは、上記水系サンカットローションと同様にして評価した。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１６】
［表１３］

	成分	実施例２１	比較例２２
粉体成分	酸化亜鉛	2.0(wt%)	2.0(wt%)
	実施例３のパウダー	3.5	—
	比較例４のパウダー	—	3.5
	実施例４のパウダー	6.0	—
	比較例５のパウダー	—	6.0
水層成分	塩化ナトリウム	0.1	0.1
	エタノール	42.0	42.0
	ＢＧ	2.0	2.0
	モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン	0.2	0.2
	フェノキシエタノール	0.3	0.3
	イオン交換水	残余	残余
評価結果	ベタツキ無さ	4.5	3.7
	油性感の無さ	4.7	3.3
	心地良さ	4.5	3.5

【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１８】
一方で、比較例２２の評価結果から、ポリオキシエチレン（１５）イソステアリルエーテルで処理した親水化シリコーンパウダー（すなわち比較例４のパウダー）及び親水化ポリウレタンパウダー（すなわち比較例５のパウダー）は、制汗剤に調製した場合に、ポリオキシエチレン（１０）イソステアリルエーテルで処理したもの（すなわち実施例２１）よりもベタツキ、油性感、心地よさという観点で劣ることが分かった。